

ソフトバンク IDC

データセンター開設

—八幡製鐵所遊休地内—



写真：左から藤井八幡製鐵所長

真藤ソフトバンク IDC 社長 北橋北九州市長

東九州自動車道、北九州都市高速道路の分岐点である等)も整っている。なお、北九州市と新日本製鐵(株)の協力も大きく、地域の活性化にも貢献していきたい」としている。

同センターは、環境面においても従来型のデータセンターと比較して空調電力で約 2 割、CO₂ 排出量で約 1 割の削減を見込みチームマイナス 6 % (京都議定書で日本が 2008 年～2012 年の間に、1990 年比で温室効果ガス {CO₂等} を 6 %削減することが義務付けられた。現在、国民一人あたりが排出する CO₂ 量は、1 日平均 6 kg で、それを具体的な 6 つのアクション “温度調節、水道水の減、自動車の使い方を減らす、エコ製品を選んで買う、買い物とごみを減らす、電気の節約等で一人、1 日、1 kg の CO₂ 削減を呼びかけているもので、それをチームとして 6 %削減を行うというもの)で削減効果を人数換算すると、約 270 万人が一日に達成する削減量になるとしている。

なお、ソフトバンク IDC の概要は、つぎのとおりである。

ソフトバンク IDC は、全国 9 ヶ所でデータセンターを運用する国内最大級のデータセンター専門会社である。現在、1,600 社以上の顧客へネットワークセキュリティや運用監視を含む高品質のデータセンターソリューションを提供している。また、ISO27001 および ITIL (イギリス政府が策定した、コンピュータシステムの運用・管理業務に関する体系的ガイドライン) 準拠の運用フレームワークに基づいて専門技術者が 24 時間 365 日顧客の保守・運用・監視を行うマネージサービスを実施している。



第 1 期建設時の敷地イメージ図

ソフトバンク IDC (東京都、真藤豊社長) は、北九州市八幡東区の新日本製鐵(株)八幡製鐵所の遊休地内に環境対応型のデータセンター「アジア・フロンティア」を 来秋、開業をめどに新設すると発表した。

今回、新設する同センターは、第 1 期分として 1,000 ラック規模 2 棟を予定、投資額は 70 億円で、今後は最大 12 棟までの拡大を検討している。

センター進出について、ソフトバンク IDC は「北九州市は、低災害地域(地震保険の都道府県別等地で北九州は一等地)でありセキュリティや事業継続性の強化に伴う安全対策やディザスタリカバリー(自然災害などで被害を受けたシステムを復旧・修復すること)の対応拠点にふさわしく、また、東アジアに向けた戦略拠点としてもすばらく交通インフラ(北九州空港開港にともない、北九州～羽田 15 便/1 日。沖縄、関西、海外では上海などへの定期便もある他、九州自動車道、



アジア・フロンティアの概観

名称：アジア・フロンティア 場所：福岡県北九州市八幡東区
敷地面積：約 30,000 m² 延床面積：約 8,000 m² 構造：鉄筋コンクリート造 規模：地上 2 階建、地下無、塔屋：1 階 雇用：約 20 名
運用開始時期：2008 年秋の予定。